

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和6年5月31日

提出区分	実績	整理番号	16	課題区分	C		
横断的な課題	安全・安心に暮らすことができる住みやすい地域づくり						
地域重点政策	安全・安心に暮らすことができる住みやすい地域づくり					南信州地域振興局	
実施機関	南信州地域振興局			担当課	所属	総務管理課	
事業名	「食」で繋げる「いつも」も「もしも」も強いまちづくり研修会事業				電話	8-237-2318	
				E-mail	minamichi-kenmin@pref.nagano.lg.jp		
事業の概要	目的 (目指す姿)	大規模災害が発生した際、被災者の災害関連死を防ぐために必要な食と栄養支援の重要性につき、南信州地域全体で理解を深め、災害時でも温かく栄養バランスが配慮された食事提供が出来る仕組みづくりに向け、公助の限界を踏まえた官民連携体制構築の一助とする。					
	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・県、市町村、防災関係機関は、災害から住民の生命、身体、財産を守る必要がある。近年、全国的に大規模災害が多発する中、地域防災力の向上が必要となっている。 ・南信州地域は、急峻な地形が多く中山間地に集落が点在し、大雨や地震など災害が発生した際は、その地形故に土砂災害が発生する危険性が高く、一度災害が発生すれば交通機関が機能しなくなり、孤立集落の発生や物資輸送に大きな影響が出るため、被災地においては限られた資源を使い、災害を乗り切らなくてはならない状況が危惧されている。 ・小規模市町村においては、災害発生時に活動する職員の数も足りているとは言えず、日々の業務においても防災訓練や災害学習について十分な時間を取れていない状況である。 ・災害時に人手が足りない状況で、ボランティア等の外部からの支援について、市町村と関係機関の間で十分な連携が取れているとは言えず、有事の際に連携がとれる体制構築を急ぐ必要がある。 ・災害時の食事については、菓子パンや揚げ物が冷たくなった弁当など、限られた支援の中で避難生活を送ることとなっている。近年そうした状況を改善しようと災害時にもおいしく食べられるレシピや調理方法などの研究も進んできており、そうした情報については、各団体内で小規模な研修会は行われているが、広く関係者を集めて実施されていない状況である。 					
概要内容 (変更後の内容)	内容	<p>1 タイトル: 美味しく楽しく「ついでに」・「ながら」・「こっそり」防災を仕掛けよう！ ～「食」で繋げる「いつも」も「もしも」も強いまちづくり研修会～</p> <p>2 日時 令和5年11月30日(木)午後1時30分から午後5時まで</p> <p>3 会場 長野県飯田合同庁舎 講堂(飯田市追手町2-678)</p> <p>4 対象者 市町村の危機管理・防災担当者、健康・保健担当者、社会福祉協議会、災害支援・防災関係団体(赤十字奉仕団、消防団等)、栄養士会、食生活改善推進団体などの担当者ほか</p> <p>5 講演 『いざという時どうする?～あなたの食と栄養～』 講師 公益財団法人 味の素ファンデーション 被災地復興応援支援事業担当マネージャー 原 裕樹 氏</p> <p>6 事例発表 (1) 長野県における行政、社協、NPO等との連携について 発表者 特定非営利法人 長野県NPOセンター 事務局長 古越 武彦 氏 (2) 避難所TKB環境向上プロジェクトについて 発表者 長野県危機管理部危機管理防災課 課長補佐 馬場 浩司 氏 (3) 災害時における栄養・食生活支援活動について 長野県栄養士会 JDA-DATリーダー 林 静子 氏 (4) 「平時からもしもに備える」地域防災力の向上を目指して 発表者 飯田短期大学 准教授 高木 一代 氏</p> <p>7 ワークショップ ファシリテーター: 味の素ファンデーション 原 裕樹 氏 ※市町村の危機管理防災担当者だけでなく災害時に連携が予想される広い層に対して参加を呼び掛ける。 ※ただ聞くだけの研修ではなく、ワークショップ形式で意見交換をする研修会として開催する。</p>					
	事業期間	令和5年11月		～	令和5年11月		
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画額	備考			
	研修会	事例発表 ワークショップ	131,113	講師等謝金 93,400円 講師等旅費 27,740円 消耗品等 9,973円			
	合計		131,113				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	参加人数		50名	44名	一部達成		
	開催後アンケート(満足度)		85%	92.30%			

事業実績・成果	<p>【実績】 当日欠席者も発生したが、44名が参加し、予定とおり研修会を実施することができた。 参加者からは、研修会開始前に、研修時間が長いため、参加をためらったとの声も聴かれたが、研修会終了後のアンケートでは、研修会全体の印象も「大変満足9件（「防災行政面側の講義の他に栄養面等のお話も聞いて良かった。」「災害時の食にかかわる行政機関、団体のたくさんの方と顔つなぎができた。」等、前向きな意見が多く出される結果となった。</p> <p>【成果】 研修会終了後も市町村や、栄養士会から、研修会の内容やレシピ集の追加配布希望など問い合わせがあり、災害時の連携や、食の重要性、災害時でも使えるレシピなど様々な情報が関係者の間で広がり、地域の防災意識の向上につながった。</p>
今後の方向性	<p>現在、長野県災害対策本部南信州地方部として大規模災害発生を想定した訓練は実施済みであり、継続する予定であるが、今回食と栄養をテーマに研修会を実施したところ、食の重要性や、ボランティアや栄養士会等で様々な取り組みを行っていることを関係者で共有することができたので、今後は、行政機関のみではなく、官民連携を取り入れた訓練の実施や研修会の開催を企画するなど、関係機関の連携をさらに深めていきたい。</p>